

帝京科学大学地域連携推進センター ミッション・ステートメント

2020/01/07策定

帝京科学大学の地域連携推進センターは、「いのちを学ぶキャンパス」に集う本学の学生や教職員が地域の様々な主体と連携して行う社会貢献活動を推進・支援し、より確かなパートナーシップの構築を目指します。それらの活動を通じ、特色ある本学の教育や研究の成果を積極的に地域社会に還元し、地域の課題の解決や、持続可能な社会の実現に貢献することを目的とします。またその過程で、実践的な教育や研究の機会を創出します。

解説

本学の地域連携活動は多くの教職員、学生の尽力によって、本学の特徴の一つに数えられるほど多数、多様の活動が行われてきた。それらの実績を踏まえ、当センターの活動を、より本学の理念に沿った明確な目的を持ったものにするために、2019年度に検討を行い、2020年1月に「ミッション・ステートメント」を策定した。ミッション・ステートメントは部局長会で承認され、ホームページ等に紹介されている。

地域連携推進センターの「短期目標」の改訂について

2022年5月9日

経緯

地域連携推進センターでは、本学の地域連携活動を、より有意義で、本学の理念に沿ったものにしていくために、2019年度にセンターの目的や使命を記述した文章の検討を行い、2020年1月に「地域連携推進センター ミッション・ステートメント」を策定した。「短期目標」は、「ミッション・ステートメント」に加え、本学全体の中期目標・計画を踏まえ、より具体的で、変化するニーズに応えた活動を行うための短期的な指標として設定している。前回の短期目標は、2020年2月18日に設定された。

本年度、新たに「中期目標・計画（2022～2026年）」が策定されたことを受けて、新たな短期目標を設定したい。

短期目標の位置づけ

- ・短期目標は「ミッション・ステートメント」と「帝京科学大学中期目標・計画」を踏まえた内容とする。
- ・短期目標は、センターが実施する事業の選択や、助成事業の選考の際の基準に活用する。
- ・短期目標は、「中期目標・計画（2022～2026年）」の開始年度に合わせて作成し、必要に応じて2,3年後に修正の検討を行う。

地域連携推進センター 短期目標2022

2022年5月11日制定

目標1. 地域の諸団体等との共創（Co-Creation）により、これまでにない、あるいはこれまでに不足していた、新しい価値・サービス等を創出する

目標とした理由：

- ・本項目は、前短期目標からの継続である。
- ・本学の中期目標の「V 地域連携・グローバル化」の目標①として、引き続き「地域との共創」が掲げられている。
- ・単なる地域貢献ではなく、諸団体等との協働によって、新しい価値やサービスを創出しようとする「共創」が求められている。

目標2. 本学の特徴を活かしたリカレント教育、生涯教育機会の提供による地域貢献を推進する

目標とした理由：

- ・大学は地域の「知の拠点」として、生涯教育に貢献することが求められている。
- ・本学の中期目標「I 教育」の目標⑤に「リカレント教育の推進」が明記された。
- ・教育的なサービスの提供による地域貢献が、これまでも本学の地域連携活動の特徴となってきた。
- ・本学の中期目標の「V 地域連携・グローバル化」の「具体的な方策」には、「②教員の知見を還元する講座の実施や研究活動に留まらず、授業の成果を活かした学生主体の活動の実施」が明記されている。

目標3 「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識した活動、特に社会的包摂やレジリエンスを意識した「住み続けられるまちづくり」のための活動を展開する

目標とした理由：

- ・「持続可能な社会」は、「建学の精神」に記述された基本的な理念であり、本学の中期目標の随所にSDGsに関する記述がされている。また、創立40周年に向けた「将来ビジョン」の中にも、「教育のための実践的な研究を推進し、研究の知見と教職員・学生の行動力により持続可能な社会の発展に貢献」することが掲げられた。
- ・持続可能な地域の視点で、災害などに強いレジリエントな地域づくりは重要であり、本学中期目標「V 地域連携・グローバル化」の「計画」「具体的方策」にも記述された。
- ・これまでの地域連携事業においても、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン：社会的に弱い立場にある人々をも含め市民ひとりひとりを地域社会の一員として取り込み、支え合う考え方）を意識した、福祉的な活動が展開されてきた。

以上